
モンスターハンター ~ 漆黒の閃光 ~

tonke180

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター ～漆黒の閃光～

【Nコード】

N4889N

【作者名】

tonke180

【あらすじ】

人間と竜が共存するこの世界。大自然の中で人とモンスターは生存競争を繰り広げていた。人がモンスターに対抗するために生み出した職業「モンスターハンター」この物語は、モンスターハンターとして生きる少年、ケント・シャープが、仲間たちとともに戦い、過ごし、学び、成長していく姿を描いた、ハーレムありドキドキありの新感覚小説である。

プロローグ（前書き）

こんにちは！初投稿になりますtonke180です。

モンスターハンター小説が書きたかったので、こうして投稿できてうれしいです！

連載小説ということで、鋭意努力していきますので最後まで未永いお付き合いをお願いいたします。

プロローグ

「熱い」何度そう叫んだだろう。「痛い」「助けて」何度わめいただろう。

だが、その声に答えてくれる者は誰もいなくなってしまった。

優しくかった父、いつも笑っていた母、いつも守ってくれていた兄、かわいかった妹。みんないなくなってしまった。

辺り是一片が火の海。動くものは見当たらない。そして目の前には見たこともないような大きな竜が立っていた。竜が吠えた。

「死ぬ」そう覚悟した。そのとき、後ろから声が聞こえた。

「もう大丈夫だよ、逃げなさい」

振り向くと見たこともない服に身を包んだ男が立っていた。頭をなでられた。

「ここから逃げなさい。私の仲間たちが君を守ってくれる。泣いてはいけないよ。さあ、逃げなさい」

男はそういうと竜に向き直った。

ただただ走った。後ろから聞こえてくる竜の吠え声と何かがぶつかる音を聞きながら。己の無力さをのろい、漆黒の暗闇に向けて泣きながら走り続けた……。

プロローグ（後書き）

プロローグから暗い雰囲気ですね・・・
ですがこの出会いが大切だったりするんですよ・・・多分・・・
それでは次回もお楽しみください^^

第1話〜始まり〜（前書き）

さっそく1話目です。

今回は狩りのシーンがなくこれからのストーリーに向けての伏線に
なってます

それでは第1話をお楽しみください！

第1話〜始まり〜

ここはジフ雪山のふもとにある村「パース村」。
非常に寒い村であるが、温暖期の今は少し暖かい。大型モンスターに襲われる心配はほとんどなく、百人にも満たない村人が住む小さいが平和な場所である。

まだ開発途中の小さな村の真ん中には大きな剣が立っている。この村を作った竜人族のハンターの遺産で、この村のシンボルともいえるものである。

その村の端に、二階建ての一軒家が立っていた。そしてその家からは朝を告げる男の声が聞こえていた……

「起きてください、起きてください！」

そう言いながら、ベッドで眠る少年を揺さぶっている真紅の長髪の美青年。

彼の名は、「ルーク・ハプスブルグ」真紅のテオストレートと呼ばれる髪型に、整った顔立ち。通りを歩いていたら、通りの女性が全員振り返る……それほど整った顔の超絶イケメン美青年で、歳は18歳である。

「本当に起きてくれませんね……、寝ながら涙を流すような夢を見ているというのに……」

ルークは困り顔である。しばらく考えるような表情をした後、パツと何かを思いついた表情になった。この場に女性がいたら全員その顔に釘付けになるような顔である。

「こうなったら最終手段を使うしかないですね」

そう言いながら右手を高々と振りかぶるルーク。

「ケント君！失礼しますよっ！」

そう叫ぶと、振りかぶっていた右手を目にも止まらぬ速さで振り下ろす。その手が寝ている少年の腹に直撃する……わずか手前で「うわーっ」

そう言いながら少年が飛び起きた。そのほおは涙でぐしゃぐしゃになり、目は恐怖からか見開かれている。

「やっと起きてくれましたね・・・って、大丈夫ですか？また例の悪夢を？」

うつてかわって心配した表情でたずねるルーク。

「うん、大丈夫だよ心配しないで。」

ほおをぬぐいながらそう答える少年。彼は「ケント・シャープ」深緑色の髪をレウスレイヤーと呼ばれる髪型に整えた少年である。見るからに女好きのするイケメンであるルークと違って、

彼は髪形をのぞけば女の子であるかのような顔立ちをしている16歳である。

「なかなか起きてこないの心配してきてみたら寝ながら泣いていたのでビックリしましたよ・・・」

そう言いながらも心配そうな表情を崩さないルーク。

「とにかく今日は、私たちのこの村での最初の狩りの日ですよ。早く朝食を食べてください」

「そうだね、って、うわっ！このご飯みんなルークが作ったの？」

驚くのも無理はない、食卓に並べられていたのは豪華な朝食だったのだから。まだ湯気の立つ目玉焼き、アプトノスの肉で作ったであるうハンバーグなど朝食とは思えない。

「そうですね、今日は初狩りですからね。しっかりと体力をつけないと」

ケントを見るルークの目がうれしそうに細められる。それもそうだろう。心を込めて作った料理をほめられて悪い気がするはずがない。

「いただきます！」

そう叫ぶとケントは、まだ湯気の出ているハンバーグにかぶりついた。すばらしい味である。

「おいしい〜！」

「それはよかったです」

食欲旺盛なケントによって朝食があつという間に食べつくされた。片づけを終えた二人は早速狩りの準備に取り掛かる。二人がまわっているのは「ハンターシリーズ」と呼ばれる防具である。

初心者ハンターが最初に身につける防具であり、大型モンスターの位置を察知できる「自動マーキング」と剥ぎ取りに集中できるようになる「剥ぎ取り鉄人」と呼ばれるスキルがついている。

二人は防具こそ同じだが、身につけている武器が違う。ケントは大きな骨を削って作られた太刀「大骨」、ルークは大剣「バスターソード」である。

準備を終えた二人はさつそく、村の中央の大きな剣の近くにある、村長の家に向かうために家を出た。

「今回は、ギアノスの討伐だったよね？」

と、ケントがたずねる。

「そうですね、詳しい依頼は村長が教えてくれるはずですよ」

と、ルーク。この村は、ハンターズギルドと呼ばれる組織のある大都市とは違い、村長が独自にクエストを出しているのである。

「ここが村長の家だね、ああ、村長がこっちにくるよ。」

歩み寄ってきたのはまだ若い見た目の、耳の長い快活そうな青年である。彼がこのパース村の村長であり、竜人族のハンターの子孫である。

「よお！ケントにルーク！依頼を聞きに来てくれたんだな？助かるぜ！外はまだ寒いからな、中で話をしよう」

三人は家の中で依頼について話した。

「今回依頼するのは、肉食竜、ギアノスの討伐だ。雪山で群れが増えてきていてな。村の近くでも目撃情報が出るようになってな、二人に依頼することにしたのさ」

「なるほどそういうわけですか・・・、数はどれほどなのでしょう？」

ルークがたずねると、村長が少し難しい顔をしながら答えた。

「数なんだが・・・、20頭討伐してきてほしいんだ。」

「20頭ですか？」

ケントとルークの声が重なる。ギアノスは単体ではそこまでの強さはないのだが、群れで襲われると熟練したハンターといえ独占を強いられる厄介なモンスターなのだ。

5頭や10頭ならまだしも、20頭というのはまだ駆け出しである二人には少し荷が重いといえた。

「すまないな二人とも、無理ならいいんだ。町からハンターを呼ぶことにするから。二人が死んでは元も子もないからな……だが費用がなあ……」

うなだれてそうつぶやく村長をみてあわてたケントが言った。

「い・いや、や、やります！必ずやり遂げて見せますから！ね、ルーク」

となりでルークもあわててうなづく。

この言葉を聞いた村長はすぐに笑顔になった。

「本当か！よかった、拡張工事続きでな。今日も新しく建設があつてな、財政が厳しいんだ。まあ二人の報酬は何とかなるからな。うれしそうにそう言う村長を見た二人は少し笑顔になる。

「そういえば、ケント。今度来る鍛冶師さんがお前の知り合いでな……ってこの話は秘密だったな」

そういつて頭をかく村長。

「まあとにかく二人で出発してくれ。こうしている間にもギアノスが襲ってくるかもしれないしな」

そういつとまじめな顔になる村長。

「任せてください！僕とルークでしっかり倒してきますから！」

「ケント君の言うとおりです、私たち二人で倒してきますから、村長は村のことをお願いします」

そういう二人に村長はともうれしそうだ。

「じゃあとにかく行ってきます！」

そういうとケントとルークは、村長や村人たちに見送られながら雪山へと出発した。

この村にきてからの初めての狩りにうれしそうなケントと対照的に、ルークは浮かない顔をしている。

「どうしたのさルーク。なんか暗い顔をしてるけど」

「いいや、繁殖期でもないのに多くのギアノスが集まっているなんておかしいなと思いましてね」

「そうだな・・僕もそう思う。まあ大型モンスターの目撃情報はないから大丈夫だと思うけど・・・」

そう話をする二人の心に暗い影がさす。

雪山を目指して歩く二人のハンター。その前途多難な初狩りが幕を開けようとしていた・・・

第1話〜始まり〜（後書き）

いかがだったでしょうか？

書くのって難しいですね・・・

今まで読んでいた作品の作者さんには本当に頭が下がります

さてギアノスの討伐に向かうケントとルーク。

今回はバトルシーンが入ります！

そしてラブコメへの第一歩?!となる女性キャラが登場します！

一週間に2度は更新するよう努力しますのでこれからもお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4889n/>

モンスターハンター ~ 漆黒の閃光 ~

2010年10月8日14時15分発行